

クローズアップ
CLOSE UP



秋元公を称えるまつり

11月10日、総社秋元公歴史まつりを開催しました。大型紙芝居の上演や本市出身でシンガーソングライターのyoshimiさんと地元のキッズダンサーなどがステージイベントを披露。武者行列ではよいい武者が地区を練り歩き、秋元公の歴史を後世へ引き継ぎました。



韻律と旋律の心の調べ

前橋文学館で開催中の平井晩村生誕140周年記念展の関連イベント「晩村を歌う - 詩の韻律と旋律」を11月16日に開催。元宝塚歌劇団の真丘奈央さんが、晩村作詞の民謡を感情豊かに歌い上げました。また、県立前橋高応援団と音楽部が、晩村作曲の同校校歌を熱唱しました。



流動的な社会を感じて

アーツ前橋で「リキッドスケープ 東南アジアの今を見る」を12月24日(火)まで開催中。多様性と流動性に満ちた東南アジア社会の現在の姿を、12組の作家が独自の視点で捉えて表現。5分ごとに軌道が変わる迷路や映像作品など23作品を展示しています。



12月3日(火)から9日(月)の障害者週間に合わせて、12月7日(土)から20日(金)まで開催される、まえばし☆みんなのえいがさいくインクルーシブシネマフェス2024。実行委員 日沼大樹さん(38歳) 元総社町

「障害の有無に関わらず、みんなが楽しめる映画祭。映画にある社会課題を考えながら、楽しんで見てほしいです」と実行委員の日沼さんは語る。

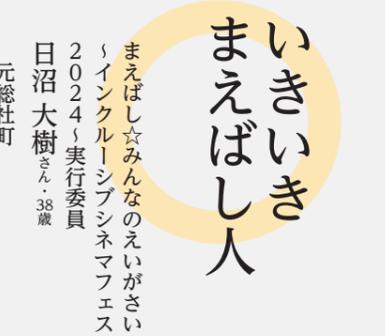
前橋シネマハウスの支配人を務める日沼さん。社会課題を取り扱い、問題提起する映画は多く存在し、日沼さんも好んで見るといふ。自身が支配人となってきたきっかけは、本映画祭でも上映する「ぼくが生きる、ふたつの世界」を手掛けた監督の作品「きみはいい子」に感銘を受けたこと。

映画に潜む社会課題意識して

「児童虐待などを題材とした映画。現実に自分たちの周りで起きていることと意識して見てほしいです。ショッキングな映像と一緒に見ることで、もっと意識すると思います」

ある時、前橋市から障害者のことをもっと知ってもらうための上映会をして欲しいと相談があった。思いが合致し、今回の映画祭の開催が実現した。

「上映する15作品から学ぶことはさまざまあると思います。更に、手話通訳つきのトークイベントやお菓子の販売などもあるため、ぜひ見に来てほしいです」と楽しそうに語ってくれた日沼さんの今後の活躍に期待したい。



スローシティの取り組みなどを紹介するこのコーナー。今回は「チッタスロー教育」について紹介します。

チッタスロー教育は、これからの地域の在り方を自分ごととして考える「スローシティな市民」になるための土台作りと、地域のことをみんなで考えるための「スローシティなコミュニティ」を作るための重要な取り組み。世界各地のスローシティで多くのプロジェクトが実施されています。

本市では、市内の園児を対象にカタツムリと自然をテーマにした「スローシティおえかき」を年1回実施。これは、スローシティの理念である自然環境や生物を大切にすることを育むことが目的です。集まった作品の一つとして同じ絵はなく、スローシティのシンボルであるカタツムリや自然を大切に思う気持ちをこどもたちそれぞれが考えて描きました。中には、木の実や葉っぱ、使わなくなったプ



【Vol.9】チッタスロー教育
☎ 観光政策課
☎ 027-257-0675



スローなまちづくり
全国推進委員会ホームページはこちら

学生の活動では、共愛学園前橋国際大と東洋大の学生がスローシティエリアにある大胡古民家の再生プロジェクトを実施。地域の人と一緒に取り組んでいます。また、スローな体験ができるスポットを学生目線で紹介するマップを作成。学生の視点から地域の魅力を再発見する取り組みで、スローシティ教育を体現しています。家庭でも、地産地消といった食や自然など、身近なスローシティの取り組みについて話し合ってみてはいかがでしょうか。



マップはこちら